

ジカウイルス感染症に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. ジカウイルス感染症は、コガタアカイエカやハマダラカに刺されることによって生じる感染症である。
2. 感染しても2割は無症状であるが、多くの場合、20日前後の潜伏期の後、40℃ほどの発熱、頭痛、吐き気、意識障害などを起こす。
3. ジカウイルスの感染はギラン・バレー症候群となる可能性があり、妊婦のジカウイルス感染は母子感染による小頭症などの先天異常の原因となる。
4. ワクチンの接種により予防が可能なので、流行地への渡航の1か月前までには予防接種を受けておく必要がある。
5. 流行地から帰国した男女は、ジカウイルス感染症の症状の有無にかかわらず、少なくとも3週間は性行為を控えることが推奨されている。

図は、120人を対象としたある疾患についてのスクリーニング検査の結果と確定診断の結果を示したものである。これに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。なお、割り切れない場合には、小数第1位を四捨五入して値を求めるものとする。

(単位：人)

		確定診断		計
		疾患あり	疾患なし	
スクリーニング検査	陽性	20	2	22
	陰性	4	94	98
計		24	96	120

1. 感度は98%である。
2. 特異度は83%である。
3. 陽性反応適中度は2%である。
4. 偽陰性率は17%である。
5. 偽陽性率は91%である。

「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 認知症の人の状態は、周囲の人々やケアの状態を反映する鏡であるとされることから、認知症の人を支える側の視点に立ち、介護者主体の医療・介護等を徹底する。
2. 認知症の人がなじみの暮らし方を継続できるよう、発症予防、発症初期、急性増悪時、中期、人生の最終段階という認知症の容態の変化にかかわらず、常に自宅において医療や介護を提供することを目指す。
3. 小・中学校において認知症サポーター養成講座を開催したり、大学生に対して認知症介護指導者養成研修を行ったりすることで、児童・学生の認知症への理解を促進する。
4. 「認知症ケアパス」は、認知症の人が自ら作成する医療・介護サービスの計画と定義されるが、個々の認知症の人の意思を尊重した認知症ケアパスが実現できるようサービスの多様化を図る。
5. 認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。